

援助技術論演習「総合演習」の効果と方向性

—演習後の学びに関する記述の分析—

杉本 幸枝¹⁾*・土井 英子¹⁾・小野 晴子¹⁾

1) 看護学科

(2005年11月9日受理)

看護学教育は科学的知識と看護実践能力を備えた人材の育成が急務である。そこで、1年次からの援助技術の中でも患者の状況を判断し実践できる能力の育成を目的に平成17年度から、「総合演習」を取り入れた。演習終了後の学生に研究への協力を求め、演習後の学びについての自由記述を内容分析した結果、53名（回収率85.5%）の有効回答が得られた。援助項目を組み合わせることで、学生は具体的な安全・安楽に気を配りながら患者に合わせた援助が重要であり、技術に関しては練習の必要性を感じていた。指導上の課題として演習後の練習方法に工夫が必要であることが明らかとなった。また、学生は意見交換をすることで学びが深まり、「総合演習」は前期のまとめとなり、効果が高いことが明らかとなった。今後も「総合演習」の継続を希望するが多くの学生が体験できるような授業の工夫が必要である。

(キーワード) 看護技術、総合演習、知識の統合

はじめに

看護技術を実施する対象は、健康に障害のある人やそれが予測できる人である。看護技術は看護師が得た情報や対象となる人のニーズを、総合的に分析し、必要な技術を判断して実践するものである。看護技術は判断したことを実践して初めて看護技術となりうると考える。学生は患者や状況を判断するためにあらゆる知識を使い、分析・解釈・統合していく能力やコミュニケーション能力といった看護実践能力が必要となってくる。そこで、援助技術論の演習では患者を設定し、具体的な患者をイメージしながら看護問題を挙げ、援助計画を立て実践するという、手順ではなく考える援助技術演習を行い、臨地実習で具現化できるように指導を行っている。演習では1回に1項目ずつを取り上げ、全員が実践できるように行っているが、学生は演習の内容・手順に終始し、患者にと

っての必要性を考えることなく演習を行っている現状がある。

そこで、患者の設定をただで援助内容は学生が決める「総合演習」を平成17年から実施した。総合演習・統合演習に関する研究^{1)~3)}はいくつかあるのみで、学生が援助項目について計画し実践した総合演習を実施している報告は見当たらない。今回、演習後の自由記述を分析し、若干の示唆を得たので報告する。

I. 目的

総合演習での学生の学びをまとめ、その効果と課題を明らかにし、今後の授業内容の充実を図る。

II. 研究方法

1. 対象

*連絡先：杉本幸枝 看護学科 新見公立短期大学 718-8585 新見市西方1263-2

平成17年度入学1年次生62名

2. 実施日

平成17年7月19日の総合演習終了後（看護過程については未学習）

3. 方法

総合演習終了後、演習を行っての学びや気づきを自由に記載してもらい翌日提出を求めた。提出された文章を内容分析した。内容の分析は研究者間で検討した。

4. 分析

自由記述を研究者間で内容分析し、カテゴリー化した。

5. 倫理上の配慮

調査対象者に研究の趣旨、調査結果を本研究の目的以外では使用しないこと、研究への協力は自由意志によるもの、研究への協力は個人評価や成績評価とは無関係であること、研究に協力しないことで不利益を被ることがないことを説明し、協力を求めた。

Ⅲ. 援助技術論B・総合演習の目的および演習方法・内容

1. 援助技術論Bの概要

開講時期は1年次前期、時間数は60時間である。主に演習を中心とした授業である。授業目的は、対象の日常生活上の健康問題を理解し、専門的に援助するための実践能力を養うことである。

2. 「総合演習」について

援助技術論Bのまとめとして、最終の演習時間に4時間（2コマ連続）で実施した。その目的は、講義・演習を通して得られた知識・技術を統合し、セルフケア能力の低下した対象に合わせた援助を計画し実践する。そして、実践する前の対象の状態を把握し、実践中・実践後の対象の反応を捉え、看護師役の行った看護実践を評価・修正し、今後に生かすこととしている。

3. 演習方法

1) 5名の教員が2グループずつ担当する。1グループの学生数は6～7人とする。

2) 演習までに下記の事例対象にあわせて、2つ以上の組み合わせた援助内容をグループで決め、各自で援助計画を立てる。

〔援助内容〕環境整備、ベッドメイキング、リネン交換、体位変換の援助、移動の援助、清拭、寝衣交換、洗髪、食事の援助、部分浴、口腔内の清潔

3) 計画を実践できるようにグループワークを行う（90分）。

4) 看護師役1～2名、患者役は担当教員の2グループ間で他方のグループから選出し、グループワークの内容を知らない状態で行う。一方のグループは観察者役をする。なお、患者役は右肘にシーネ（副木）を当てている。

5) 援助は30分以内で実践する。

6) 2グループが実践した後、意見交換を行う（30分）。

事例

58歳の西方晴子さんは脳梗塞のため右上下肢に麻痺があり、手指は握った状態で、肘関節は90度の拘縮がある。左上肢は力があり、右側に傾くのを支えることができるが、右下肢は力が入らないので転倒しやすい。右上下肢に対するリハビリテーション目的で入院し、1週間が経過している。リハビリテーション室で関節可動域拡大訓練、平行棒による歩行訓練を行っている。ポータルトイレを使用しているが入浴は禁止されている。

4. 実施した援助内容：1グループ；車椅子移動と足浴 2グループ；座位による手浴と環境整備、3グループ；車椅子移動と足浴、リネン交換 4グループ；車椅子と手浴 5グループ車椅子移動とリネン交換 6グループ；車椅子移動と寝衣交換 7グループ；リネン交換と寝衣交換 8グループ；車椅子移動と足浴 9グループ；車椅子移動と水分摂取、環境整備 10グループ；車椅子移動とリネン交換、体位変換の援助

Ⅳ. 結果および考察

研究参加の意思表示のあった学生は56名（回収

率90.3%)で、そのうち有効回答は53名(85.3%)であった。自由記述を内容分析した結果、289のコードを抽出した。それを20のサブカテゴリーに分類し、さらに7項目のカテゴリーに類型した。コードは「 」, サブカテゴリー名は《 》, カテゴリーは【 】と表記する。

抽出されたカテゴリーは【具体的な援助】【意見交換の役立ち】【患者にあった援助】【前期のまとめ】【難しいけれど楽しい】【今後の要望】に分類し、研究者間で命名を行った。

1. 具体的な援助 (表1-1, 2参照)

学生の学びの中で最も多かった69コードから【具体的な援助】が抽出された。23コードから《状況によってさまざまな方法がある》, 15コードから《車椅子はできると思っていたがいくつか失敗した》, 14コードから《練習して技術を自分のものにしたい》, 9コードから《無駄な動きが多い》7コードから《患者に対して安全・安楽を提供する》を抽出した。

《状況によってさまざまな方法がある》では「使用する物品を工夫することができた」「拘縮のため袖を通すのが難しかった」が挙げられた。これは患者の設定が今までの演習で多かったベッド上安静臥床の設定ではなく、離床が可能な患者であったため、物品や方法が異なることが理解できたものと考えられる。また、今回設定した患者の関節の拘縮を表現するために、肘にシーネ(副木)をつけることで、学生は麻痺患者および関節拘縮を実感することができていた。関節拘縮のある患者の設定は実技試験などで体験していた学生ではあるが、実際に肘関節が拘縮している患者の寝衣交換は、健側から脱がせて患側から着せるという原則を踏まえつつ腕を通すのが困難であった。さらに、「寝衣交換」の演習では袖口の広い和式寝巻きであったが、今回の演習の中ではパジャマであったため、一層の困難さを感じていた。しかし、より現実に近づける工夫をすることで、学生は麻痺患者の寝衣交換について深く考察することができていた。

《車椅子はできると思っていたがいくつか失敗した》《練習して技術を自分のものにしたい》《無

駄な動きが多い》《患者に対して安全・安楽を提供する》では、実技試験の項目であった車椅子の移動援助、ベッドメイキング、寝衣交換を選択するグループが多かったが、学生はできると思っていた技術が対象の状況によってできず、危険な行動や無駄な動きのために安全性や安楽性が損なわれていることに気づき、援助を行う際の効率性や経済性、患者・看護師役の疲労なども考え合わせた援助の重要性が再認識された。そのため、《練習して技術を自分のものにしたい》と今後の学生の課題が明確になり、指導上の課題として演習後繰り返し練習ができる工夫が必要である。

2. 意見交換の役立ち (表2-1, 2参照)

60コードからなる【意見交換の役立ち】では、実技の前のグループワークと実技後のグループ間同士の意見交換が、役立っていた。28コードから《グループワークをすることで違う意見を聞いて参考になった》, 19コードから《意見交換で気づかない見方や発見があった》13コードから《他人に教えてもらうのは技術を高めるためにもいい》の3つのサブカテゴリーを抽出した。

《グループワークをすることで違う意見を聞いて参考になった》では、「グループワークでは総合演習にふさわしい議論ができた」「グループワークでみんなの考え方がわかってよかった」などを挙げており、学生は自分では思いつかなかった方法の提示にグループで協力することの意義を認めている。《意見交換で気づかない見方や発見があった》では「意見交換は刺激になり勉強になった」「意見交換はいつもより内容が濃かった」のように、グループワーク後の意見交換でさらに学びが深まっていることが明らかとなった。

3. 患者にあった援助 (表3参照)

47コードから【患者にあった援助】が抽出された。24コードから《患者に理解してもらえないような説明ができなかった》, 14コードから《患者に合わせた援助が大切だ》, 9コードから《患者への思いやりや気遣いが足りなかった》を抽出した。

《患者に理解してもらえないような説明ができなかった》では、それまでの演習では患者・看護師

役ともに援助項目がわかっているため、十分な説明の必要性がなく、単に方法を説明し理解を求めるといった仕方であった。しかし、今回の演習ではもう一方のグループから患者役を選び、援助内容や方法がわからない状況での説明であった。看護師役は援助の目的が明確になっていなければ患者が納得する十分な説明ができないことが理解できたのではないかと考える。また、コミュニケーションは人間関係を形成する上では大変重要なので、他の学生が行う患者への説明やコミュニケーションの取り方が1年次の初学者には身近なモデルとなったのではないだろうか。

《患者に合わせた援助が大切だ》では、それまでの演習の中でも患者の状況設定をして行っているが、ベッド上安静の必要な患者の設定なので、学生は手順に沿って援助をする傾向にあった。しかし、今回の演習では離床が可能な患者設定だったので、すべてを援助するのではなく、患者ができることを見守ることが大切である。そのためには患者の症状や状態を総合的に考えた援助が必要であることが認識できたと考える。学生は患者や医療の現場を知らないで、今回の演習を通して一人一人違った存在である患者として理解する一助となったのではないかと考える。

《患者への思いやりや気遣いが足りなかった》では、援助方法がわからない患者は看護師役の援助に対して素直な反応を示すので観察者役は患者に対する気遣いの必要性を感じたのではないかと考える。看護師役は見られていることに緊張し、実施することに精一杯の状況であるので、客観的に見ることで観察者は実施することに精一杯では患者によりケアは提供できないことが理解できた。

4. 前期のまとめ (表4参照)

43コードから【前期のまとめ】を抽出した。16コードから《前期のまとめとしてかなり役立った》、7コードから《今までに学んだ援助を組み合わせるようになっていくのはすごく勉強になる》、8コードから《今までの応用として学ぶ部分が大きかった》、6コードから《現場で応用できると思った》、6コードから《4月からこれだけ成長した

のかとうれしくなった》が抽出された。

学生は2つの援助項目を組み合わせることで、4月からの各演習が基本にあり、患者に合わせて方法を変化させることで応用力が身についたと感じていた。そして、このことは初めての受け持ち患者を持つ実習である基礎看護学実習Ⅰでも応用できるという考えを持っていた。そして、基礎力とともに応用力が身につけていることから自分自身の成長を実感していた。これは入学後半年間にわたる自己学習の努力の結果であり、総合演習は学生のやる気や意欲の向上につながっていると考える。

5. 難しいけれど楽しい (表5参照)

26コードから【難しいけれど楽しい】を抽出し、18コードから《今までで一番楽しかった》、8コードから《2つの課題を組み合わせる行うのは難しい》を抽出した。

「楽しい」、「よかった」という意見が挙がったが、これは学生自身が考え実践した結果、知的満足感が得られたためと考える。また、学生は計画を立てることに困難さを感じているが、これは演習時期が看護過程の未学習段階であるため、十分な思考過程が育成できていない困難さと考えられる。しかし、看護過程を習得したからといって飛躍的に成長するとは考えにくいので、入学初期での援助計画を立て始める早期から、具体的な援助が立てられるように指導する必要がある。援助技術演習では項目ごとに実施していくが、その中でも具体的実践可能な援助計画を立てられるように繰り返し援助の必要性を確認しながら演習を進めることが重要であると考えられる。そして、このことは看護過程を学習する上での基礎となるであろう。

6. 今後の要望 (表6参照)

44コードから【今後の要望】を抽出した。18コードから《全員が看護師役をできたほうがいい》、17コードから《後期は自分で考える力を身につけたい》、9コードから《準備の段階で流れがわからず困った》を抽出した。

《全員が看護師役をできたほうがいい》では、「他のグループの援助も見てみたい」「みんなが看

「看護師役をできればいい」「看護師役が大きい」などが挙がっているように、看護師役一人の負担が大きく、個々の学生自身が実践し意見をもらうことでより学びを深めたい要望が感じられる。それだけ総合演習の意義が大きい。

《後期は自分で考える力を身につけたい》では、総合演習の目的を理解し、学生自身の方針を明確にしている。「これからもこういう演習ができればいい」という要望が多く、後期では援助技術論A（看護過程演習）の中でより実践に近い総合演習を計画している。しかし、援助技術論C・D（診療補助技術）ではひとつひとつの技術を実践に実施することを目標にしているため、現在その計画はないが今後検討していく必要がある。

次に《準備の段階で流れがわからず困った》では「連続した2つの項目とかがわがわがにくわがわが」「時間をかけて臨んだらもっと濃い演習になった」と記述があったように、教授側の準備不足やオリエンテーション不足が指摘されており、反省すべき点である。

おわりに

今年度新たに始めた「総合演習」は学生の自由記述からはいくつかの課題はあるが、概ね良い評価を得、日常生活援助技術の基礎から応用への広がりを感じた。時間的制約はあるがその中でも学生が楽しい、充実感があると思えるような援助技術演習にしていくためには、知的好奇心を満足できるような事例の工夫や演習展開が必要であろう。

謝辞

本研究の調査にご協力いただいた看護学科1年生の方々に深謝いたします。

参考文献

- 1) 宮内栄子：基礎看護学において課題を用いた総合技術演習を実施しての一考察，看護教育の研究，224-227，1990
- 2) 大隈直子：基礎看護技術教育の課題と方向性－1年次の統合演習の結果分析から－，九州厚生年金看護専門学校紀要，1，101-108，2000
- 3) 平塚志保他：基礎看護技術の効果的な演習方法に関する一考察，看護総合科学研究会誌，3(2)，1-11，2000
- 4) 村田由香他：基礎看護教育における看護技術演習の評価（第1方）－日常生活援助技術23項目の演習実施前後の質問紙調査より－，山口県看護研究会学会誌，30-32，2003
- 5) 宮園真美：臨床判断能力向上を目指した実習前看護技術演習の取り組み，九州厚生年金看護専門学校紀要，4，63-76，2003
- 6) 犬塚久美子：場面設定を用いた看護技術演習の検討，聖隷学園浜松衛生短期大学紀要，24，5-11，2001
- 7) 森崎由佳：模擬患者を用いたシミュレーション学習の教育効果－看護技術の統合に向けての演習－，第35回日本看護学会論文集 看護教育，187-189，2004

杉本 幸枝・土井 英子・小野 晴子

**Effects and Perspectives of “General Practice” in Practice of Supportive Skills
– An Analysis of Comments of Students after the Practice –**

Yukie SUGIMOTO, Hideko DOI, Haruko ONO

The Department of Nursing, Niimi College, 1263-2 Nishigata, Niimi, Okayama 718-8585 Japan

Summary

In nursing education, it is most urgent to train nurses with scientific knowledge and practical skills of nursing. We started “General Practice” in 2005 in order to develop students’ ability to evaluate patients’ situations and act on them among other skills. After the practice, we asked the students to write down their comments on the practice and we have got effective comments from 53 students (85.5%). The students combined the requirements seeking patients’ safety and comfort. They feel that they must practice more on their skills. As instructors, we came to know that we need to contrive ways to practice after the instruction. We found that in “General Practice,” the students learn from their exchanges of each other’ s opinions. It works as the summary of the course effectively.

Key words: Nursing Skills(Arts), “General Practice” , Integration of Knowledge

表1-1 カテゴリー【具体的な援助】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
具体的援助	状況によってさまざまな方法がある	状況によってさまざまなやり方がある
		使用する物品を工夫することができた
		いろいろな工夫ができる
		自分たちで工夫した援助を行うことができた
		何度も頭で考えながら動いた
		基本的なことができていなかった
		準備は事前に済ませておく
		援助方法はひとつでないことがわかった
		見学者だったが他の人のをみて気づいた
		2つ以上の援助を行うことでいろいろなことに気づけた
		今まで気づけなかった注意点にも気づくことができた
		自分の身に置き換えて演習ができた
		一つの演習では援助している気がしない
		目的から援助を考えて関連付ける点が多かった
		客観的に他人の援助を見て気づいた
		観察や確認が重要だ
		看護は問題を見て観察し解決することが重要である
		観察したことをケアに生かし看護計画を立てる
		楽なものを選択するグループが多かった
		実際に行う援助の流れにあわせてすることができてよかった
	拘縮のため袖を通すのが難しかった	
	麻痺があるとしっかり援助しなければいけないことがわかった	
	麻痺側に注意して援助をする	
	車椅子はできると思っていたがいくつか失敗した	寝衣交換は肩関節が外れてしまうのではないかと
		車椅子はできると思っていたがいくつか失敗した
		意外とできた
		寝衣交換はかなりてこずった
		体位変換もかなりの時間を要した
		足浴を車椅子で行ったがやり方がわからなかった
		ベッドメイキングの間患者は何をするのか援助が繋がっていないかった
		車椅子は実技試験で体験したのでなれていた
		車椅子での足浴の後そのままフットレストに乗せてよいか困った
		ベッド上で足浴をするよりも安楽だった
		ベッドに清潔な足ではいることができた
		手浴をするともつとよい
		車椅子で安楽で危険がないよう援助するのは難しい
ベッドメイキングは上達した		
患者に着心地や体位を確認する		

表1-2 カテゴリー【具体的な援助】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
具体的な援助	練習して技術を自分のものにした	練習ができていなかったのでスムーズに行かず失敗もたくさんあった
		もっとときばきできるようになりたい
		いろんなことを練習しないといけない
		今までのことを自分のものにしていきたい
		もっと練習すべき
		何度も繰り返し練習が必要だ
		あまり練習ができなかった
		練習して完璧にしてみてもらって意見をもらいたい
		まだまだ練習が必要だ
		今までの積み重ねと練習の成果を発揮する場であった
		練習して技術を自分のものにした
		演習で1回しかしていないものは覚えていない
		援助計画を立てていても実際してみるとできないことがあった
		演習で一度するだけではできない
		演習から時間が空いているものは忘れていく
	無駄な動きが多い	無駄な動きが多い
		時間を効率よく使っていた
		時間を有効に使えた
		要領よく援助することで時間の短縮や疲労の軽減ができる
		少し時間がかかっていた
		丁寧だけど速度も大切だ
		もう少しすばやくする
		時間配分を考えたので3つできた
		有効に時間を使うことができた
	患者に対して安全・安楽を提供する	患者に対して安全・安楽を提供する
		安全で安楽な援助が必要だ
		安全で安楽な援助が必要だ
		安全で安楽な援助が必要だ
		患者にとって安全でよいケアができるか話し合った
		グループワークで安全安楽かを話し合いながらできた
多少ベッドメイキングで危ないところもあった		

表2-1 カテゴリー【意見交換の役立ち】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
意見交換の役立ち	グループワークをすることで違う意見を聞いて参考になった	話し合いが面白かった
		グループで話し合ったことを多くの人に伝えていく
		グループワークをすることで違う意見を聞いて参考になった
		グループワークで疑問に思ったことが解決できた
		グループなので話し合いながら問題を解決できた
		グループで話し合っってよい援助ができるか考えられた
		グループで話し合いながら行ったので話すことができてよかった
		グループワークは他の人の意見を聞いて理解することができた
		グループでいろいろな工夫案が出た
		グループの意見を聞くことができた
		グループで意見交換ができてよかった
		一人の患者の援助を決めていくのもかなり検討した
		グループワークでみんなの考え方がわかってよかった
		グループワークでは自分だけではわからないことも解決し考えが深まった
		グループワークの時間が長かったので問題に対してじっくり考えれた
		グループだったので違った意見を聞けた
		グループワークでは総合演習にふさわしい議論ができた
		グループで意見交換しながら取り組んでいくことはよい
		夏の上着をどうするかをグループで話し合った
		グループで話せたのもよかった
		時間も十分あり問題の解決を話し合った
		グループで意見交換をすることで気づくことができた
		グループワークでたくさんの考え方や方法が聞けた
		グループワークで自分の意見を言えなかった
		グループで計画したのでよい計画ができた
		グループワークで指摘があった
		グループで協力しなければ意味をなさないことがわかった
計画を立てるときにしっかり話し合いをすれば内容の濃い演習ができた		

表2-2 カテゴリー【意見交換の役立ち】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
意見交換の役立ち	意見交換で気づかない見方や発見があった	意見を交換し合うことができた
		他のグループのを見て気づくことができた
		意見交換で気づかない見方や発見があった
		意見交換はいつもより内容が濃かった
		見えてこなかった観点が見えてよかった
		意見交換は刺激になり勉強になった
		自分の意見だけでなく他の人の意見も聞けるよい機会だった
		悪かった点を教えてもらうのは自分にとってよい
		意見交換ではたくさんの意見が出た
		実際に援助を行っているときは気づかないこともたくさんあった
		意見交換をすることによって学ぶことができた
		意見交換でもいろんなことを考えることができる
		演習のときは気づかなかったことも意見交換で知れ収穫が大きかった
		意見交換ができてよかった
		意見交換は今まで一番よかった
		意見交換ができてよかった
		意見交換で自分にとってもいい勉強になった
		よい意見交換ができた
		意見を出し合うことができてよかった
		他人に教えてもらうのは技術を高めるためにもいい
	気づかなかったことに気づけた	
	自分で気づけなかった点や確認ができた	
	自分では思いつかなかった考えを教えあうことができた	
	たくさんの人の意見を聞いてよい刺激がもられた	
	看護師、患者、観察者の立場が違って着眼点が違うのでさまざまな意見が出た	
	技術やコミュニケーションの良し悪しを言えるのは将来役に立つ	
	人前で話すのが苦手な人にとっても積極的に参加できる	
	自分では気づかない部分も気づけた	
	他人に教えてもらうのは技術を高めるためにもいい	
	自分が思いつかなかった意見が多く聞けた	
	自分が気づくことは他人も気づくことがわかった	
	自分の意見を発表できてうれしかった	

表3 カテゴリー【患者にあった援助】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
患者にあった援助	患者に理解してもらえ るような説明がで きなかった	どう患者に説明すれば相手に伝わるのかがわかった
		説明不足だった
		患者の了解を得ずに行った
		事前に説明すると患者は安心できる
		患者に理解してもらえ るような説明ができなかった
		説明することが大事
		説得でなく納得してもら うことがいい看護につな がる
		一番難しかったのはコ ミュニケーションだった
		患者とのコミュニケーション を取るのはとても難しい
		コミュニケーションが取 れていなかった
		患者とのコミュニケーション も患者によって違う
		コミュニケーションはそ の人の人にあった会話の 仕方や早さがあることが わかった
		その人にあったコミュニ ケーションの取り方を考 える
		相手にどう接すればい いかわかった
		患者との会話は大事だ
		会話を大切に する
		会話を重視して いてコミュニケーション を学んだ
		体と体が触れ合うこと や愛コンタクト、患者 の反応でコミュニケーション が取れることがわ かった
		患者と看護師の会 話が本物っぽい
		コミュニケーション を取らないのはよ くないが、一方的に 話すのはよ くない
		コミュニケーション の取り方は考 えさせられた
	早口で言っ ても伝わら ないことが ある	
	患者との コミュニ ケーション の取り方 が勉強に なった	
	目線を合 わせるな ど患者に 安心感 を与える	
	患者に合 わせた援 助が大 切だ	対象に合 わせた 看護が 大切だ
		患者に合 わせた 援助が 大切だ
		患者にあ った援 助が できる か考 えた
		患者の 援助は 患者の 症状や 状態を 総合 的に考 えて 患者 に会 った 援 助が 大切
		その人 にあ った 援 助を グル ープ で考 えた
		患者 にあ った 援 助を 選 択し ない とい け ない
		患者 にと って 一 番 よ い ケ ア を 考 え る こ と が で き た
		患者 に合 わ せ た 援 助 が 大 切 だ
		患者 にと って 一 番 よ い 援 助 を 考 え る こ と が で き た
		その 人 の こ と を 思 い 浮 か べ る こ と が で き た
		患者 が安 定し たか 確 認 す る
		患者 の 様 子 を 見 な が ら 行 わ な い とい け ない
	患者 の 気 持 ち を 考 え る こ と が 大 切	
	患者 が で き る こ と を 見 守 る こ と が 大 切	
	患者 への 思 い や り や 気 遣 い が 足 り な か つ た	患者 へ の 思 い や り や 気 遣 い が 足 り な か つ た
		患者 に謙 虚な 気 持 ち で 接 す る の が 大 切
		習得 でき て な い 技 術 や 気 配 り に 気 づ く こ と が で き た
		麻痺 の患 者 の 手 が 届 く と ころ に 水 分 を 置 く 心 配 り が 大 切
		患者 が快 適な 生 活 を 送 れ る よ う に 心 か け る
		患者 が満 足す る 看 護 を す る に は 気 を 配 る
		細か い と ころ ま で 気 を 配 れ る よ う に な り た い
患者 に安 心し て も ら え る よ う に 考 え る の は 難 しい		
広い 心 を も つ こ と が 大 切		

表4 カテゴリー【前期のまとめ】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
前期のまとめ	前期のまとめとしてかなり役立った	苦手なものがわかった	
		自分の欠点がわかった	
		自分が習得できていない部分がわかった	
		今まで学んだことを試す場であり、復習の意味で貴重だった	
		理解していたつもりでも安楽な体位で交換しないとだめだ	
		前期で学習した援助を振り返るのによかった	
		前期のまとめとしてかなり役立った	
		今までの復習ができてよかった	
		今まで学んだことの総復習ができた	
		最後にまとめられた	
		総合演習でよいまとめができた	
		今まで習ってきたことのまとめになった	
		前期でしたことのポイントを思い出しながら観察できた	
		今までの演習でしてきたことを再確認できる	
		前期のまとめとしてよかった	
		前期で習ったことは患者によってさまざまな方法がある	
		今までに学んだ援助を組み合わせさせてやっていくのはすごく勉強になる	事前学習がどれだけ大切かがわかった
			初めてだったがとても勉強になった
			今までに学んだ援助を組み合わせさせてやっていくのはすごく勉強になる
	人間として基本的なことを学んだ		
	グループで計画が違って勉強になった		
	自分たちで体験し試行錯誤しながら身に付けていくことも大切		
	今までの応用として学ぶ部分が大きかった	身だしなみの大切さを学んだ	
		うまく対処できたのでよかった	
		患者の症状が急変しても対応できるようにしていた	
		習ったことは完璧にできる	
		基礎を固めてきたと同時に応用力も身についた	
		今までの応用として学ぶ部分が大きかった	
		応用することができる	
		患者の状況を観察しその場に対応できる	
	現場で応用できると思った	グループワークを取り入れることで自主性が養える	
		実習に役立つと思う	
		現場で応用できると思った	
		患者の要望に対応していきたい	
		実習に出たとき自分で計画を立てないといけない	
		必死にやってきたことは看護の場ではいくらでも連続して起こるものである	
	4月からこれだけ成長したのかうれしくなった	いつもは1つずつの援助が流れにあわせて行うのでより実践的だった	
		4月からこれだけ成長したのかうれしくなった	
		自分の成長を感じることができた	
		これまでやってきたことを振り返って自分自身に感動した	
身につけてきた技術を発揮できたのでよかった			
前期で練習してきたよかった			
今まで習った技術や知識を生かしてできた			

表5 カテゴリー【難しいけれど楽しい】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
難しいけれど楽しい	今までで一番楽しかった	一つの援助を作っていくのは楽しかった
		やっけていて楽しかった
		なかなか楽しかった
		今までで一番楽しかった
		全体的にやってよかった
		みんなで自由に何かすることはいいことだ
		総合演習をしてよかった
		いろんな援助を組み合わせるで行う演習ができてよかった
		すごくいい取り組みだ
		演習はやってよかった
		総合演習はとてもよかった
		とてもよい機会であった
		普段の演習と違ってよかった
		現場でつかえるので1日だけではもったいない
		2項目以上の演習なので新鮮な感じがした
		いつもと違った演習ができた
		今までの演習とは違って新鮮だった
		総合演習はよい経験になった
		2つの課題を組み合わせるで行うのは難しい
	自分たちでやることを考えるのは大変	
	自分が思っているよりすることがあって大変だ	
	シチュエーションを考えるのが難しかった	
	2つの課題を組み合わせるで行うのは難しい	
	連続的な援助だったので難しかった	
	自分ひとりで計画を立てることの難しさを学んだ	
	計画通りに進めるのが難しかった	

表6 カテゴリー【今後の要望】

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
今後の要望	全員が看護師をできたほうがいい	他のグループの援助も見てみたい	
		他のグループの援助も見てみたい	
		他の項目も見たかった	
		いろいろな組み合わせを指定するのもよい	
		することが偏らないほうがいい	
		全員が看護師をできたほうがいい	
		一人ずつ看護師ができるのもっと意見が出る	
		1人の看護師がするのもっと体験したかった	
		看護師を分担して行ってもよかった	
		2組に分けて1人1回はできるようになったらいい	
		みんなが看護師ができればいい	
		看護師はとても大変だった	
		看護師は緊張していた	
		緊張して何回も失敗をした	
		看護師の負担が大きい	
		看護師役一人しか技術の復習になっていない	
		看護師はすごい緊張だ	
		看護師と患者は緊張していた	
		後期は自分で考える力を身につけたい	今後もしていったらいい
			総合演習の回数を増やしてほしい
	またこのような援助をしたい		
	このような演習がこれからもあればいい		
	こんな機会を作ってほしい		
	真剣に一生懸命取り組んでいきたい		
	このような演習は大事だ		
	来年もしてほしい		
	毎年やって方がよい		
	来年もしてみたらいい		
	後期もできればしたい		
	これからもこういう演習ができたらい		
	今後1-2回はあったほうがよい		
	これからも実施したい		
	後期は自分で考える力を身につけたい		
	準備の段階で流れがわからず困った	自分たちがしっかりする	
		普段から緊張感を持って気をつけたい	
		準備の段階で流れがわからず困った	
		連続した2つの項目とかいてあったがわかりにくかった	
		自分の考えてきた方法をどう説明すればわかってもらえるか困った	
		みんなのアドバイスもなかなかできなくて困った	
		グループで練習する時間が持てなかったのであつた	
		1グループ30分は時間が短く援助も限られる	
	時間をかけて臨んだらもっと濃い演習になった		
初めに言っておいたほうが心構えができ、準備の時間を取れる			
準備の時間が足りなかった			